

新たに入会された皆さん
団体会員

・特活(宝塚つむぐの家)

新たに入会された皆さん
賛助会員

・藤田 かおり

寄付をいただいた皆さん

・いきいきシニアゼミナール
・阪神シニアカレッジ同窓会
・中野裕行

(順不同、敬称略 期間:2019年12月16日~2020年3月15日まで)

ご支援ありがとうございました。

(認定)宝塚 NPO センター会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
力ナ	トクティエイリ タカラツカエヌビーオーセンター	タカラツカエヌビーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター

伊丹市立市民まちづくりプラザ 受託業務終了とリニューアルオープンのご案内

宝塚NPOセンターは、2017年度から「市民まちづくりプラザ」の指定管理業務を、また休館期間中は市民活動支援業務を受託してきましたが、2019年度をもって受託業務を終了いたします。

市民まちづくりプラザを通して「まちを良くしたい」との熱い思いを持った皆さんにお会いすることができ、かけがえない時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

市民まちづくりプラザは、改修工事を終えたスワンホールの1階にて4月からリニューアルオープンする予定です。



(認定)宝塚 NPO センター

〒665-0845
 兵庫県宝塚市栄町2-1-1
 ソリオ1-3F
 TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
 E-mail: zukanpo@hnpo.net
 URL: http://hnpo.net/
 駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 中山光子

宝塚 NPO センターニュース

TAKARAZUKA NPO CENTER NEWS

市民の手で市民活動を支える

102

このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2020.3

誰かにとって不要なモノが 別の誰かの宝になる



みなさまの寄付で支えられています

http://hnpo.net/support/
認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ります

NPO法人ユーズ宝島 理事長 加藤 治

宝塚NPOセンターの事業紹介

宝塚NPOセンターで取り組む事業は多岐にわたります。それぞれの事業に、宝塚NPOセンター「な・ら・で・は」があります！

▶ 就労準備支援事業及び自立相談支援事業(就労支援)

非正規雇用の増加などによる経済的な困窮。また、家族や職場、地域とのつながりが希薄になることによる社会的孤立。それらが大きな社会問題となっています。これらの問題を解決するため、平成 27 年度に生活困窮者自立支援法が制定され、生活困窮者の就労をサポートする『はたらく応援センター』(宝塚市事業)を開所しました。それ以前に、私たちは『生きがいごとサポートセンター』(兵庫県事業)や若年無業者対象の『地域若者サポートステーション』(厚労省事業)を運営していました。その運営の中で、就労支援は、地域の事業者との連携が一番大切であると日々感じていました。

『はたらく応援センター』でのサポートは、相談者にとっての必要な知識やスキルの習得だけでなく、就労を通しての社会参加や自己実現につながることを目指しています。さらに、相談者個人が就労支援を通じて、地域産業の担い手となることで、地域課題の解決を図ることも目的としています。その結果、今年度も多くの方が就労に結びつきました。

新型コロナウイルスの影響で仕事を休まざるをえない方も多く、いまだに事態は収束の兆しが見えません。休業補償などに関する政府の発表もありましたが、お困りの方は多く、今後相談件数が増えるのではないかと予想されます。今後も気を引き締め、一人ひとりの困りごとに寄り添ったサポートに臨みます。



● 仕事を通じた社会参加づくり

<宝塚市職場体験付若者就労支援事業>

「職場体験実習付き宝塚市若者就労支援プログラム」修了!!

学びや体験を通して就労するための基礎を身に付ける「宝塚市若者就労支援プログラム」が今年の7月にスタートし、1月23日に修了式を無事に終えました。

14名参加で見事7名の方が就職!参加者一人ひとりにはそれぞれの物語があります。ある参加者は、市内のレストランで職場体験をしました。プログラム終了後、生まれて初めて仕事に就くことができた彼は、初任給でお世話になったレストランに就業報告へ!体験先の方から「こんな素敵な出会いに巡り合えたことに感謝です」とあたたかいお言葉を頂きました。

修了式では一言スピーチを行います。「この講座で人生が変わった」「前向きになれた」と語った言葉を聞くと胸にグッとくるものがありました。彼らが一歩ずつ前進し、表情が変わっていく姿を見ると、私たちの喜びと共にやりがいを感じます。と同時に社会に出て壁にぶつかった時に戻れる場所でありたいと強く思います。



売布にあるレストランで接客を体験



コープでの職場体験!品出しをしています



宝塚市の方からお言葉を頂きました



一人一人に修了証書を授与されました

コラム



「不要品(使える廃棄物)は宝物」



私たちは、簡単に言えば、「ゴミ(使える廃棄物)は宝となる」をモットーにゴミの有効活用をして、地域さらには、国際社会に貢献しようとしている団体です。目的は、使える廃棄物の再利用を実現し、ゴミの減量を図ることにより、循環型社会を確立していく。そして地域住民の生活環境の向上を図ると共に、環境の保全に関する活動を実践し、国際社会の発展向上に寄与することです。

家庭の押し入れやクローゼットの中には、「いたみ」や「よごれ」がなく十分着用できる、又は新品未使用の服が眠っていて、捨てるのは「もったいない」、「何か意味のあることに再利用できないか」と思っておられる方も多くいらっしゃいます。それらの衣料品を、認定NPO日本救援衣料センターを通じて全世界の難民に送らせていただいています。衣料を送るにしても送料が必要です。送料は、家庭や遺品整理等から排出される不要品の寄付を受け、それをインターネット、ガレージセール等で換金し送料等に当てています。

また、家庭や高齢者世帯の大型ゴミ、廃棄家電製品などの排出をお手伝いし、依頼者と一緒にクリーンセンターに持って行く活動もしています。その中には、不要品であっても再利用が出来る物が沢山あります。それを必要とする方々にお分けしています。

これらの収益金は、衣類の送料以外に、無料の医療活動をされているNPOジャパンハートや、国境なき医師団など海外で活躍されている慈善団体に寄付させていただいています。宝塚にも国際的に活動されているNPO法人「ネパール・ヨードを支える会」があり些少ではございますが寄付をさせていただいています。こういう活動を皆さんにご理解いただき、環境に配慮した生活を共にしていけたら、私たちの活動も意味あるものになるのではないかと思います。これからも不要品を活用して国際協力が出来れば幸いです。

NPO法人ユーズ宝島 理事長 加藤 治(かとう おさむ)

取材に行ってきました

「モノも人も大切に社会貢献活動」

NPO法人ユーズ宝島は、「まだ使える不用品」をゴミとして捨ててしまう前に、国内外への寄付や欲しい方への引き渡し、細かい分別による資源化などを通して、ゴミを減らす活動をしています。その活動は、モノの有効活用や発展途上国を支援する国際貢献につながっています。今回、理事長の加藤 治さんにお話を伺いました。

「不用とされたモノもまだまだ活用できる」

活動のきっかけは、クリーンセンターに持ち込まれる「使える不用品」の多さを目の当たりにしたこと。まだ使えるモノをゴミにしてしまう前に、もっと有効活用する方法があるのではないかと考え、NPO法人を立ち上げられました。

ユーズ宝島に集まる不用品のうち、衣料は主に認定NPO法人日本救援衣料センターに寄付されます。日本救援衣料センターの活動は、貧困や災害、紛争で着るものに困っている海外の方に衣料を届ける活動。「日本はまだ豊か。世界にはもっと困っている人がいる。少しでもその助けになれば」と活動に賛同された加藤さんは衣料の寄付を始められたそう。ユーズ宝島には衣類以外にも家電・雑貨・家財道具など様々なモノが集まります。それらはNPO法人消費者協会宝塚が行うガレージセールへの寄付やネットのフリマサービスを活用して欲しい方の手元に届き、再度モノとして活用されるように活動をしています。

「周囲に広がる、モノを無駄にしない気持ち」

不用品の収集を続ける中で遺品整理の依頼を受けることも。整理では家財一点一点丁寧に確認します。それは「ゴミを減らすことに加え、ご遺族や持ち主の気持ちに寄り添い、大切なものを残された方々にお返すためでもある」と加藤さんは言います。活動の一つ、大型廃棄物のゴミ出し支援でも人に寄り添う姿勢は同じ。高齢の方が大きな不用品の廃棄で困っているところを搬出から運搬までを担い感謝されています。地域の方との関係も良好で、「倉庫の整理をしていると気軽に声をかけてくれる」と言います。不用品処分の相談があれば運搬や引き取り手探しのお手伝いもされます。そのような関係性の中、倉庫を整理し、今後は地域の方が集まれる場所を作りたいと言う加藤さん。その活動姿勢や言葉の端々から感じるのは、人もモノも大切に社会に恩を返したいという強い思い。その思いが周囲につながりを生み、ユーズ宝島にモノが集まり、無駄を出さない流れが生まれているのだと感じました。



ハンディキャップのある方が自分らしく暮らす「はんしん自立の家」にタオルを寄贈



日本救援衣料センターに寄付した衣料は世界の必要とする方に届けられます